

経営理念：利用者『最善の利益』を図り、地域の福祉に貢献する

保育の方針 1. 子どもの人格・人権を尊重し、一人ひとりの思いを大切にします 2. 子どもの発達に即した援助・保育をします  
3. 子どもが安心して過ごせる生活の場にします

保育目標 ◆じょうぶな身体（健康）◆ たしかな考え（理性・認識）◆ゆたかな心（感性・情緒）◆よき仲間（協調性・社会性）



## こりす 2歳児クラス便り

令和5年9月19日

文責 大角 千代美

朝夕が涼しくあちこちで彼岸花を目にする様になり、いつの間にかセミの声から虫の声に替わり少しずつ秋の訪れが感じられる様になりました。運動会も来月（7日）へと近づいており、「先生、見てて」と言う声もたくさん聞こえる様になってきました。

それぞれの個性、発達に合わせて手助けしながら、焦らずに見守っていこうと思います。

### 憧れの心を大切に

～みんなで楽しく～

もしか組のお兄ちゃん、お姉ちゃん達が竹馬や登り棒、雲梯と頑張っている姿を見て、刺激を受けた2歳児さん。最近ではジャングルジムに登ったり、鉄棒にぶら下がって楽しむ姿を多く見かける様になりました。運動会に向けての取り組みも始まり巧技台や梯子、平均台に挑戦しています。巧技台を積み重ね（写真参照）梯子や平均台を繋げて渡って行きます。最初は低い高さから始めた子ども達でありましたが回数を重ねてやっていく内に今の高さまでやれるようになりました。

2歳児クラスは、4月生まれから翌年の3月生まれと月齢差が大きいです。3月生まれのよしひろ君も「先生、見ててね」と張り切って挑戦する姿が毎回見られます。自分の力を信じて手や足に力を入れてゆっくりと確実に一段一段と登って行く姿に逞しを感じます。そんな中、えいと君が梯子の下に潜り込み「だれだ、わたしのはしをガタゴトさせるのは・・・」と『さんびきの山羊のがらがらどん』のトロルになりきって声を掛けるとみんなは大喜び。まさかの劇遊びに苦笑しながら見守っていると子ども達は次々にトロル役になりきり台詞を大きな声で言いながら友達が梯子を上っていく姿を見守る姿がありました。梯子の下にもぐる事は一つ間違えると大きな怪我に繋がります。しかし、子ども達は自分達で考え、ここは大丈夫と確信を持ったからこそ始めた遊びです。保育者の私達も最善の注意を払いながら子ども達の遊びを保障しながら見守っていきたいです。

私達が大切にしたいのは一つひとつ大人から指示されて動けるのではなく、自分で見通しをもち自分で次の行動を決めていく生活の主人公としての力です。言葉掛けが多くなりすぎて、自分で考える力を奪ってないか、子ども達の姿を見つめ直しながら、これからも言葉掛けのあり方を考えていこうと思います。日々、成長を見せてくれる子ども達。子ども達の成長を傍で見守り子ども達の力を伸ばしていける保育である様に努めていきたくと思います。

### お知らせ お願い

運動会が近づいてきました。かけっこ、野を越え山越え、親子競技など子どもも大人も楽しめる内容を準備しております。当日、ご家族の方々には競技の参加だけではなく、様々な面で子ども達のサポートをして頂く事になりますがご協力を宜しくお願い致します。

苦情・相談解決制度 本園の保育や処遇等に意見・要望がありましたら、ご遠慮なく申し出て下さい。

受付担当者 主幹保育教諭 榎並 理恵 解決責任者 園長 中根 賢誠

第三者委員 丸田瑞穂 (099-482-2927) 横峯友里子 (099-474-1851) 山口 和美 (090-5473-5866)

